

心理学シリーズ 人間嫌い編 <その3>

～子どもの情景～

2006.9.25 タツノオトシゴ



何処へ行くのか？ 旅がらす・・・
一宿一飯のもてなしと、受けた恩義は忘れない・・・

三つ子の魂、百まで・・・ すずめ百まで踊り忘れず（^^）
子どもの頃の遊びには、色々な遊びがあります。
最近の子どもは部屋に引きこもりがちで、TVやパソコンゲームなどに夢中です。
少子化の世界では、ますます兄弟が少なくなっています。

兄弟（姉妹）ゲンカや、仲間同士の争いの中から学ぶものが多くあったはずですが。
今回は、子どもの遊びから幾つかを見ていきたいと思います。（昔を思い出してネ！）

『かーごめ、かごめ、かーごのな～かのと～りいは・・・』
この歌は、子どもの遊びの原点であり、通過儀式を表しています。
『いーつう、いーつで～やーるう、うしろのしょうめん、だあ～れ？』
かごの中に入る鬼は、じゃんけんで決めます。負けた人が中に入るのですが、すぐに鬼と交代できる人と、いつまで経っても交代できない人がいます。
何度も鬼になる人は、新しく引っ越してきた子どもの例が多いようです。
（一体何時になったら、私たちの名前が覚えられるの？早く覚えて頂戴よ！）
飽きてきた子どもは、「いちぬ～けた！」と言って輪から離れ、別の子どもが抜けるのを待ちます。最初に抜けるのは、準リーダー格の子どもが多いように思います。
リーダーはそれを察知し、「今度は、かくれんぼをしよう！」と走り出します。
鬼になっていた子どもは、その場でシクシクと泣いていませんでしたか？

ころあいを見計って、誰かが、
「ねえっ！一緒に遊ぼうよ！」
と呼び戻しに来ます。

誘われれば断れない、子どもの
遊びの世界は意外と厳しいのです。
（ねえ！Tomy.Jrさん）



では、かくれんぼに誘われた子どもの、
そのあとを覗いてみましょう。

最初に準リーダー格の子どもが鬼を買って
出ます。(お手本を示すのです)
いんちきをしたり、ずるい事をしないかの
チェックは、リーダーの仕事です。
さっき泣いていた子どもは、隠れる事は得意
です。誰にも負けない位、上手に隠れます。
でも、それが他の子ども達にとって不満です。
最後まで隠れていると、見つけ出さずに
次のゲームに移っていくのです。(またまた、
ひとりでシクシク泣かなければなりません)



今度は、缶けりが始まっています。皆が大きな声を出し、楽しそうに遊んでいます。
勇気を出して、「ねえ！私も入れてよ」と傍に行くと、リーダーが出てきて「いいよ！
その代わり、鬼からだ！」と場を仕切ります。(やはり、これは断りきれません)
リーダーが、誇らしげに缶を遠くまで蹴り、皆が隠れやすくしてくれます。
事件は、この後に起こります。

隠れている子どもを見つけ、名前を呼んで缶の所に戻るのですが、どうしても名前が覚え
られない子どもが何人かいます。見つけても名前が分からないので、呼ぶことが出来ずに
缶を蹴られてしまい、またまた遊びの苦しみを味わう事になるのです。

(大人になっても、顔は覚えているけど名前が出てこない時って焦りますよネ！)

雨が降ると、室内での遊びに切り変わります。
先ほどの「かごめ、かごめ」も出来ますが、教室などでは別の遊びが盛んです。
「椅子取りゲーム」や「ハンカチ落とし」覚えていますか？
この遊びも、タツノオトシゴの得意種目でした。(単に、要領が良かっただけなのです)
でも、嫌いな遊びです。内側を向き合って座り、鬼が外を走り回ります。
どこでも、適当な場所へハンカチを落とすのですが、皆は何処の席にハンカチが落ちてい
るかを知っています。知っていながら、知らん振りをするのですから難しいのです。
というか、他人の不幸に陥るのを見て、自分に降りかからないように願うという気持ちが
許せないのではないのでしょうか？トラブルの原因を知りながら、自分のところで発覚しな
ければ、あえて問題化しなくなっている現在の風潮そのものが感じられます。
(人間、性善説を唱えることが難しくなっています)

女の子の遊びには、大人の社会を真似する遊びがあります。
 代表的なのが「おままごと」ですね！（タツノオトシゴも、よく一人でやりました）
 お料理を作ったり、食事をしてからの挨拶など、子どもは良く見ているなど感心します。
 材料が足りないと「ねえ、あなた！お店に行ってお野菜を買ってきて頂戴！」と言いながら、「はい、お金！」と言って葉っぱのお金を渡します。言われた男の子は、材料を復唱しながら、調達に出かけるのです。意気揚々と品物を手にしながら帰ってくると、「ちゃんと良い品物を見て買って来た？いい加減な物じゃないでしょうね！」と釘を刺します。「あなた！お釣りは？」と聞いて、「はい！これがお釣り」といって別の葉っぱを差し出すのが、正しい作法です。うまく対応が出来ない子どもは、「しっかりしなさいよ！」と厳しく指摘されてしまいます。
 （うさおさんは、「あの～！その～！・・・」の言い訳組ではなかったでしょうか？）

「ただいま～ッ！」
 「あなた～ッ！お帰りなさい！
 お風呂にします？
 それとも、ご飯にします？」
 こんな会話もよく飛び出します。
 「それじゃ、お風呂にするか」
 と言いながら、靴を脱いで洋服をたたむマネをします。
 「石鹸をつけて、よく洗ってね！」
 （普段の会話がそのまま出てきます）



食事の場面でも、「お疲れさま(^^)、はいビール！」なんて言ってくると嬉しくなります。「今日は、おかずが少ないな～あ！」なんて会話が出てきたり、「好き嫌いをしてはいけません！」などと、普段言われていることがそのまま出てくるからです。
 子ども役はお人形のケースが多いので、時々誰かが代役でおしゃべりさせたりしています。「お父さんばかり、おかずが多くてずる～い！」とか、「今日は、お給料日だから一品多いのネ！」なんて、外で喋っているかも知れません。
 夕飯では「今日のおかずは美味しいね～え！」と喋るの鉄則です。
 その家庭の事情が、かなり見えてきますので、うかつな話も出来ません。(^^；
 （皆さんも、ご用心、ご用心・・・）
 純粋な気持ちの子どもは、親の真似をしながら育っていきます。良いところも、悪いところもそのまま受け継いでしまいます。（特に女の子は母親似です）
 子どもの世界で、自然発生的に順位が出来上がるのには理由がありそうです。

まずは、体力が勝負です。特に幼稚園から小学校低学年で序列が出来上がります。同じ学年でも、早生まれ（1月～3月）の子どもは体力が劣っています。この頃の半年から1年という期間は、大きなハンディキャップでしょう。一般的に、早生まれの子どもが勉強や芸術に才能を発揮するのは、仲間はずれで一人遊びをしています。工作やお絵かき、それと楽器を習ったりして、他の分野で見返してやろうという気持ちが働くからでしょう。大学で講義をしていると、福祉系の生徒にも早生まれが多くいます。バリバリ仕事してる営業職の人には5～10月生まれが多く、干支をみるとイノシシやトラが多いのには何か訳があるのでしょうか？小中学校で暴れん坊の人が企業で成功し、経営者になっている例が身近に多く、成績優秀だった人がサラリーマンか学校の先生や公務員になっています。

何年も修行を重ね、無形文化財の指定を受けた人がいます。そのとき、アナウンサーが「今回はオメデトウございます。お喜びの感想を聞かせてください」とマイクを向けると、「他のもんは、修行をしてある程度仕事ができるようになったら、すぐに独立し自分で店を出しよった。わしは不器用やさかい同じ事しか、ようせんかっただけや・・・」と言っています。「それでは、他に何か嬉しい事はありませんか？」と問いたしますが、「之とって嬉しい事もあらへんがな～あ！毎日がおんなじことの繰り返して、美味しいご飯が食べられたらそれでええんや！」と頷きながら、「この年になったら、昔のいじめっ子が先に死によってな～あ・・・、なんとこのう寂しいような、嬉しい様な気持ちや(^_^;）」とにっこり笑ったのが印象的でした。

子どもの遊びを通じて、色々なことが見えてきます。子ども達は、大人の世界とは違う世界で多くを学びます。

しかし、子どもが少なくなり、お互いの世界での接点が少なくなると、学ぶべき事が学べず、そのまま大人になってしまいます。(未成熟な大人が多いわけです)

過保護な一人っ子では、外の世界では生きていけません。



『カエルが鳴くから、かーえろッ!』とか『弱虫毛虫、挟んで捨てる!』なんてことを言いながら、人間も成長していく動物なのです。

女性は、コミュニケーションに生き、余生を楽しく過ごします。

男性はロマンに生きますが、寂しく孤独な人生を送る運命にあるのでしょうか。